

【バンコック駐在員事務所】

「メコン川地域の東西経済回廊について」

6月11日に、アジア開銀等が主導するメコン川流域の周辺地域開発支援プロジェクトの一環としてスタートした東西経済回廊(East-West Economic Corridor:EWEC)沿線で国境を接するベトナムのラオバオ・ラオスのデンサワンと、ラオスのサワナケート・タイのムクダハーンの各都市で、3カ国間の車輛相互乗り入れの認可を祝う開通記念式典が一斉に行われました。東西経済回廊はメコン川地域に建設される5つの経済回廊のうちの1つであり、ベトナムの中部3省、ラオス中央部、タイ北東部、ミャンマー南部という4カ国をほぼ直線で結ぶ全長1,450キロメートルの大動脈となっています。

経済回廊の整備に伴い、メコン川地域6カ国(ラオス・タイ・ベトナム・カンボジア・ミャンマー・中国)の間で越境交通協定(The Greater Mekong Subregion-Cross-Border Transport Agreement:GMS-CBTA)に合意・批准し国境を越えた陸上輸送網の整備・促進、国際物流に関する諸制度の簡素化・国際標準化への取り組みを進めています。特に東西回廊に関しては、タイ・ラオス・ベトナム間で2007年8月に3国間による初めてのCBTAの先行適用が合意されていました。

従来タイ～ベトナム間の輸送車輛は国境で貨物を積み替える必要がありましたが、今般の車輛相互乗り入れ認可によって、今後1台の車輛で3カ国間の直接乗り入れが可能となり、例えばタイの車輛がラオスを通ってベトナムへ入国する際に貨物の積み替えが不要となります。各国それぞれ400台の相互乗り入れ可能な輸送車輛が割り当てられます。当面はタイの車輛はベトナムのダナン港まで、ベトナムの車輛はタイのコンケンまで相互乗り入れが認められ、ラオスの車輛はタイ・ベトナム全土への走行が可能となります。

しかしながら、逆ハンドル走行の問題(タイは左側、ラオスとベトナムは右側通行)や、言語の問題(タイ語とラオス語は共通の部分が多いが、ベトナム語は全く異なる)がある為、物流会社の中には、タイから出発した場合、3カ国を同一車輛で直接乗り入れせずに、途中のタイ・ラオス国境のラオス側通関のあるサワナケートで荷物を積み替えてベトナムに乗入れる方式をとる会社もある模様です。

メコン川地域の陸上貨物輸送は、東西経済回廊の利用と通関手続きの簡素化によって大幅な所要時間の短縮と、物流関連コストの削減を可能とさせるだけではなく、同地域への投資誘致、雇用創出・貿易促進、更には観光業の発展にも寄与することが期待されています。



【株式会社エヌ・エヌ・エーより地図記載許諾済】

【出所：タイ・ベトナム現地新聞各紙より】

照会先：法人ソリューション営業部 国際業務室 (東京)電話 03-5223-6672
(大阪)電話 06-6268-6357

当資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成しておりますが、弊行がその正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前の連絡なしに変更されることもあります。当資料は情報提供のみを目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、お客様御自身でご判断下さいますようお願い致します。
* 禁無断転載